

# 天皇賜盃 第83回日本学生陸上競技対校選手権

開催日:平成26年9月5日(金)~7日(日)

場所:熊谷スポーツ文化公園陸上競技場

種目	名前	学年	記録	着順	備考
10000m	床呂 沙紀	2年	34分51秒81	13 (31名中)	
3000m障害	港 菜月	2年	11分10秒17	予選敗退	予選2組11着(17名中)

## 【山本コメント】

本大会は、学生陸上競技アスリートにとっての最高峰の大会であり、日本学生陸上競技連合が設定する標準記録を突破した選手と地区インカレの優勝者にのみ出場権が与えられる。昨年度は1名の出場であったが、本年度は2名が出場した。

床呂が10000mに出場し、13位でゴールした。全日本大学女子駅伝出場校のエース級の選手がそろそろレースの中で、前半から先頭集団につけてレースを進め、終盤まで大きくペースを落とすことなく順位をキープした。蒸し暑いコンディションだったため、全体的に記録としては低調で床呂も自己記録には及ばなかったが、自身初の全国大会出場のチャンスを活かし、非常によく健闘した。もっとも、走りに対する本人の満足度はいまいちだったようで、来年度の同大会でのさらなる上位進出を期待したい。

港が3000m障害に出場し、2組11着で予選落ちした。昨年度に続く出場で、昨年度の同レースでのタイムを約3秒上回ったが、昨年と同様、決勝進出はならなかった。障害を越えていく技術は非常に巧みであり、この種目に対する適性は高い。次こそは決勝に進み、入賞することを期待したい。

トラック競技の上位大会に出場して上位校の選手に挑んでいくことは、選手個人のモチベーションになるのはもちろん、女子駅伝部全体の士気向上にも大きく影響する。来年度はさらに多くの選手が出場できるよう、チームの底上げを図っていきたい。

そして、いよいよ迫る9/27関西学生女子駅伝に向けて、チームの総合力を高めていきたい。